

# 高岡地区事業所 景況レポート

2026年1～3月期

このレポートは、高岡市内191社、射水市20社、その他4社の合計215社について景況の現況と見通しを調査したものです。  
(回答177社、82.3%)

今期(2026年1～3月期)実績、来期(2026年4～6月期)見通し



今期(1～3月)は、ほとんどの業種で売上、収益ともに前期から大幅な低下となり、製造業・卸売業の一部を除く大半の業種で前期での見通し予想を下回る結果となった。

来期(4～6月)については、製造業・卸売業・設備関係業のそれぞれ一部業種を除き、ほとんどの業種で売上、収益ともに今期比上昇を見込んでいるが、長引く物価上昇、人件費等の増加に加え、中東情勢の影響や消費の低迷等も懸念され、先行きは不透明感が増していることが調査結果から読み取れる。

## ◇概況

2026年2月の有効求人倍率は、全国平均1.19倍で、前月を0.01ポイント上昇した(富山県は1.47倍で前月と同水準)。

一方、3月の国内企業物価指数(速報値)は前月比で+0.8%、前年比では+2.6%と前月から0.5ポイント拡大した。また、今期(1～2月)の消費活動指数(季節調整済・旅行収支調整済)は5期ぶりに落ち込み98.1(2015年=100)となり、前期(10～12月)比では▲0.5%であった。月別では1月は98.3、2月は97.9であった。(日本銀行HPより)

当庫の調査においては、今期(1～3月)の景況感(D.I.)は、売上、収益ともに、前期を大きく下回る結果となった。

来期(4～6月)については、売上、収益ともに上昇する見通しとしている。

令和8年1月～3月期の日経平均株価は、1月から2月にかけて、衆議院解散を巡る報道や自民党圧勝を好感して上昇し、2月末には史上最高値となる58,850円に達した。3月には、中東情勢の悪化によるエネルギー価格上昇やサプライチェーンの混乱から大幅下落し、51,063円で引けた。

## 【日経平均株価】

(単位：円)

	最高	最低
1月	54,341	51,117
2月	58,850	52,655
3月	58,057	51,063

## ◇業況

今期(1～3月期)の全業種の業況(前年同期と比較した増減率の平均)は、売上額▲2.2%、売上数量▲2.8%、収益が▲2.2%となり、前期(10～12月期)との比較においては、売上額、売上数量、収益ともに1.0ポイント前後下回った。

また、今期における全業種平均での売上額D.I.は、前期より30.6ポイント低下の▲31.1、収益D.I.も25.3ポイント低下の▲27.6となり、いずれも前期を大きく下回る結果となった。

しかし、来期(4～6月期)見通しの全業種平均のD.I.では、売上額で今期より22.4ポイント上昇し▲8.7を予想、収益でも今期より15.1ポイント上昇の▲12.5を予想している。

	5%以内		-5%以内
	10%以内		-10%以内
	20%以内		-20%以内
	20%超		-20%超

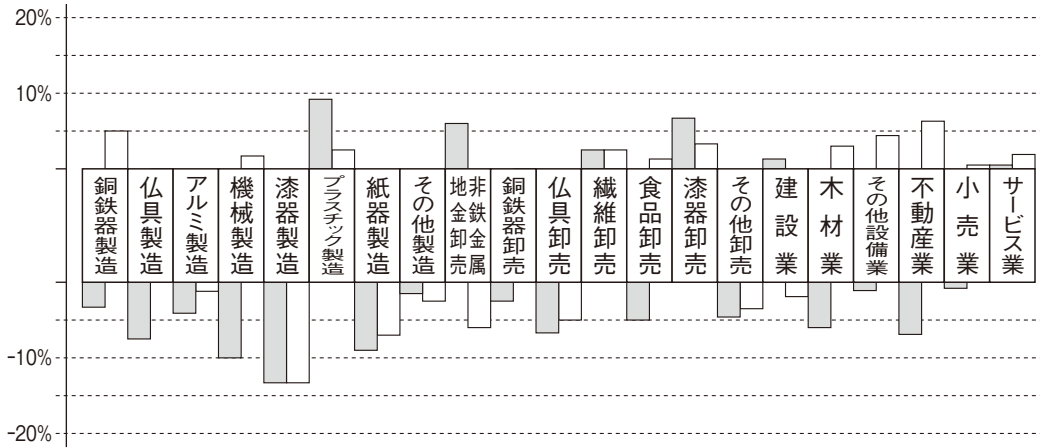
## 景況天気図(売上額、数量、収益)

業種		1～3月期 実績	4～6月期 見通し
製 造 業	全 体		
	全 般		
	一般銅鉄器		
	仏 具		
	アルミ		
	機 械		
	漆 器		
	プラスチック		
	紙 器		
	その他製造業		
卸 売 業	全 般		
	非鉄金属地金		
	銅 鉄 器		
	仏 具		
	織 維		
	食 品		
	漆 器		
その他卸売業			
設 備 関 係 業	全 般		
	建 設		
	木 材		
	その他設備業		
不 動 産 業			
小 売 業			
サ ー ビ ス 業			

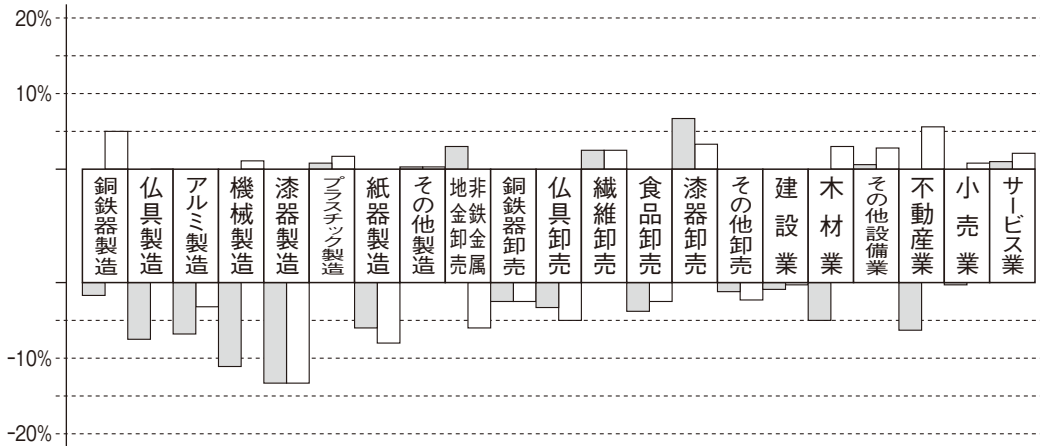
# 1. 全業種総合

## 売上額と収益の現状及び見通し(対前年同期比増加率)

〔売上額の現状 (2026年1月～3月) 〕  
 〔売上額の見通し(2026年4月～6月) 〕



〔収益の現状 (2026年1月～3月) 〕  
 〔収益の見通し(2026年4月～6月) 〕



## 売上額と収益の推移(対前期比)

〔売上額(受注額)〕

(%)

	2025年 4月～6月	2025年 7月～9月	2025年 10月～12月	2026年1月～3月		2026年4月 ～6月予想
				見通し	実績	
増加	32.8	33.2	35.4	16.3	22.6	27.0
変わらず	26.4	27.4	28.7	39.9	23.7	37.3
減少	40.8	39.4	35.9	43.8	53.7	35.7
〔増加〕-〔減少〕	▲8.0	▲6.2	▲0.5	▲27.5	▲31.1	▲8.7

〔収 益〕

(%)

	2025年 4月～6月	2025年 7月～9月	2025年 10月～12月	2026年1月～3月		2026年4月 ～6月予想
				見通し	実績	
増加	24.7	25.7	30.7	15.4	18.7	22.5
変わらず	37.1	35.4	36.3	44.6	35.0	42.5
減少	38.2	38.9	33.0	40.0	46.3	35.0
〔増加〕-〔減少〕	▲13.5	▲13.2	▲2.3	▲24.6	▲27.6	▲12.5

◇売上額D.I.（「増加」－「減少」の社数構成比）

今期（1～3月期）の全業種総合の売上額D.I.は、▲31.1となり、前期（10～12月期）に比べ30.6ポイント低下。来期（4～6月期）についてのD.I.は、▲8.7となり、今期に比べ22.4ポイントの上昇を予想している。

◇収益D.I.（「増加」－「減少」の社数構成比）

今期（1～3月期）の全業種総合の収益D.I.は、▲27.6となり、前期（10～12月期）に比べ25.3ポイントの低下。

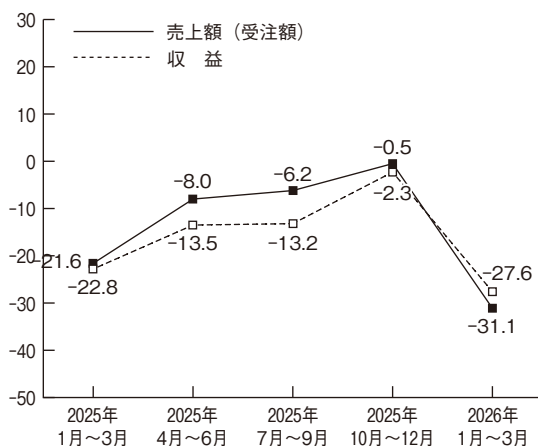
来期（4～6月期）についてのD.I.は、▲12.5となり、今期に比べ15.1ポイントの上昇を予想している。

◇在庫数量D.I.（「増加」－「減少」の社数構成比）

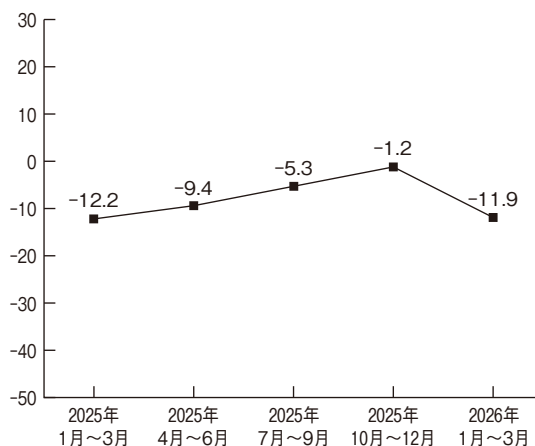
今期（1～3月期）の全業種総合の在庫数量D.I.は、▲11.9となり、前期（10～12月期）に比べ10.7ポイントの低下となった。

来期（4～6月期）についてのD.I.は、▲8.4となり、今期に比べ3.5ポイントの上昇を予想している。

〔売上額 収益D.I.推移表〕



〔在庫数量D.I.推移表〕



〔資金繰り〕

(%)

今期順位	項目	構成ウェイト	
		今期	前期
1	変わらず	66.7	73.0
2	やや苦しい	20.3	15.2
3	やや楽	8.5	8.4
4	苦しい	3.4	0.0
5	楽	1.1	3.4

〔経営上の問題点〕

(%)

今期順位	項目	構成ウェイト	
		今期	前期
1	売上・受注の停滞・減少	25.1	23.7
2	原(材)料価格の上昇	13.6	10.3
3	人手不足	11.0	11.9
4	人件費の増加	8.9	7.3
5	販売価格の伸び悩み	6.1	6.0

## 2. 製造業

◇概況

製造業全般における今期の前年同期（1年前）と比較した増減率の平均は、売上額▲3.9%、売上数量▲4.2%、収益▲4.6%となった。前期比では、売上額、売上数量で0.4ポイントの減少、収益では0.1ポイントの増加となり、売上数量は5期連続の減少となった。

製造業の内、プラスチックのみが売上額、売上数量、収益ともに前年同期比で増加し、仏具、漆器が対前期比で増加した。

今期の製造業全般における売上額D.I.は、前期より22.7ポイント低下し▲43.3となり、収益D.I.も、14.0ポイント低下し▲32.9となり、いずれも前期での予想に近い結果であった。

来期見通しのD.I.については、売上額で今期より29.6ポイント上昇の▲13.7、収益においても、今期より14.7ポイント上昇の▲18.2とを予想している。

経営上の問題点については、「売上・受注の停滞・減少」との回答が前期より2.7ポイント減少の31.0%と最も多く、次いで「原(材)料価格の上昇」が前期比5.5ポイント増加の15.9%であった。また、「人件費の増加」が前期比1.4ポイント増加した。

現 状	見 通 し
■	■

**(銅鉄器)**

銅鉄器製造における売上額D.I.は、前期に比べ166.7ポイント低下し▲66.7、収益D.I.も、133.4ポイント低下し▲66.7となった。

来期についてのD.I.は、売上額、収益ともに66.6ポイント上昇の▲0.1を予想している。

在庫水準は、適正、やや多いが33.3%、やや少ないが33.4%であった。

**(アルミ)**

アルミ製造における売上額D.I.は、前期に比べ27.6ポイント低下し▲70.5、収益D.I.は前期に比べ8.7ポイント低下の▲58.8となり、いずれも前期での予想を下回る結果となり、5期連続のマイナスとなった。

来期についてのD.I.は、売上額で41.1ポイント上昇の▲29.4、収益では23.6ポイント上昇の▲35.2を予想している。

在庫水準は、適正が75.0%、やや少ないが18.7%、少ないが6.3%との回答であった。

**(機械)**

機械製造における売上額D.I.は、前期に比べ25.6ポイント低下し▲55.6、収益D.I.は前期に比べ7.8ポイント上昇の▲22.2となり、いずれも4期連続のマイナスとなった。

一方、来期についてのD.I.は、売上額で100.1ポイントと大幅な上昇の44.5、収益では22.2ポイント上昇の0.0を予想している。

在庫水準は、適正が50.0%、多いが25.0%、やや多い、やや少ないがいずれも12.5%との回答であった。

**(漆器)**

漆器製造におけるD.I.は、売上額、収益ともに前期と同じ水準である▲100.0であった。

来期についてのD.I.は、売上額、収益ともに66.6ポイント上昇の▲33.4を予想している。

在庫水準は、適正、やや少ないが33.3%、少ないが33.4%との回答であった。

**(プラスチック)**

プラスチック製造における売上額D.I.は前期に比べ49.9ポイント低下の▲16.6、収益D.I.も66.6ポイント低下の▲50.0となり、売上では7期ぶり、収益では2期ぶりのマイナスとなった。

しかし、来期についてのD.I.は、売上額で83.3ポイント上昇の66.7、収益も66.6ポイント上昇の16.6を予想している。

在庫水準は、適正、やや多いがいずれも50.0%であった。

**(紙器)**

紙器製造における売上額D.I.は、前期に比べ40.0ポイント低下の▲80.0、収益D.I.は60.0ポイント低下の▲80.0となり、売上額、収益ともにほぼ前期での予想通りとなり、いずれも5期連続のマイナスとなった。

来期についてのD.I.については、売上額、収益ともに40.0ポイント上昇の▲40.0を予想している。

在庫水準は、適正、やや多いが40.0%、やや少ないが20.0%であった。

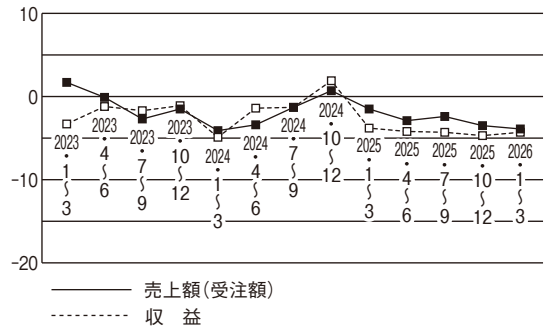
**(仏具)**

仏具製造における売上額D.I.、収益D.I.は、いずれも前期に比べ75.0ポイント上昇し0.0となった。

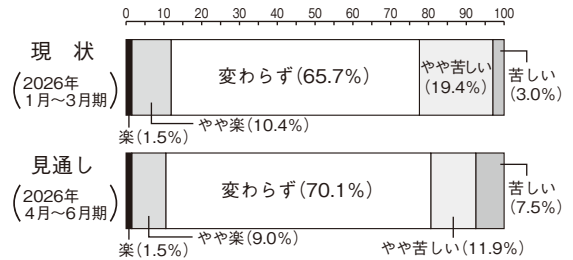
来期についてのD.I.は、売上額、収益ともに66.7ポイント低下の▲66.7を予想している。

在庫水準は、適正が50.0%、やや多い、やや少ないが25.0%であった。

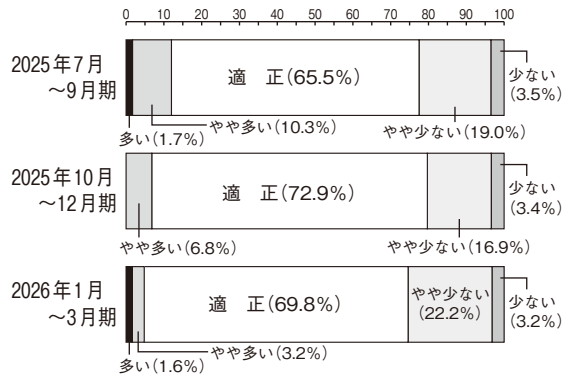
**〔売上額、収益の動き(対前年同期比)〕**



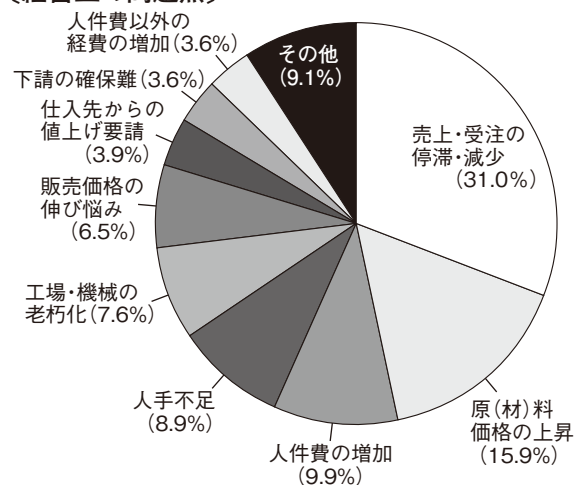
**〔資金繰りの現状と見通し〕**



**〔手持ち在庫の動き〕**



**〔経営上の問題点〕**



### 3. 卸売業

現 状	見 通 し

#### ◇概 況

卸売業全般における今期の前年同期(1年前)と比較した増減率の平均は、売上額▲1.6%、売上数量▲3.4%、収益▲0.2%と2期ぶりにすべてマイナスとなった。前期比では、売上額で4.5ポイント、売上数量で4.7ポイント、収益で3.3ポイントといずれも減少した。卸売業の内、仏具のみが売上額、売上数量、収益とも対前期比で増加した。

今期の売上額D.I.は、前期に比べ48.3ポイント低下し▲34.4、収益D.I.も前期比39.6ポイント低下し▲31.3となり、売上額では2期ぶり、収益では3期ぶりのマイナスとなった。

来期についてのD.I.も、売上額で6.3ポイントと小幅上昇の▲28.1、収益では今期と同じ水準である▲31.3を予想している。

経営上の問題点については、「売上・受注の停滞・減少」が26.6%で最上位であり、次いで「人手不足」が9.1%、「競争の激化」が9.0%であった。

#### (非鉄金属地金)

非鉄金属地金卸における売上額D.I.は、前期に比べ80.0ポイント低下の▲20.0の一方、収益D.I.は前期と同じ0.0となった。

来期についてのD.I.は、売上額で今期比40.0ポイント低下の▲60.0、収益は60.0ポイント低下の▲60.0を予想している。

経営上の問題点については、「原(材)料の入手難」が23.3%で最上位であった。

#### (銅鉄器)

銅鉄器卸における売上額D.I.は、前期比20.0ポイント低下し0.0、収益D.I.も前期比40.0ポイント低下し0.0であった。

来期についてのD.I.は、売上額、収益ともに今期比50.0ポイント上昇の50.0を予想している。

経営上の問題点では、「仕入れ先からの値上げ要請」が33.4%で最上位であった。

#### (仏 具)

仏具卸におけるD.I.は、売上額で前期比100.0ポイント低下の▲100.0、収益も前期比66.7ポイント低下の▲66.7となった。

来期についてのD.I.は、売上額、収益ともに上昇し、いずれも▲33.3を予想している。

経営上の問題点については、「売上・受注の停滞・減少」が52.9%と前期に続き最上位であった。

#### (織 維)

繊維卸におけるD.I.は、売上額で前期比100.0ポイント上昇の100.0と4年ぶりのプラスとなり、収益では7期連続の0.0となった。

来期についてのD.I.は、売上額で今期比100.0低下の0.0、収益でも今期と同様の0.0を予想している。

経営上の問題点については、前期同様、「売上・受注の停滞・減少」が50.0%で最上位であった。

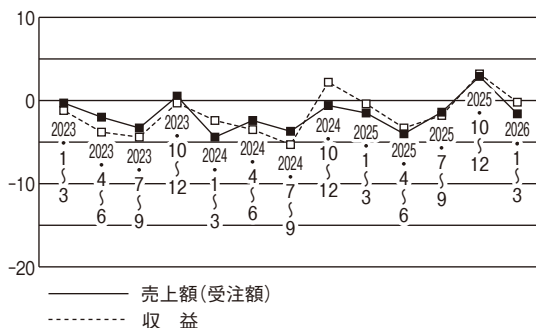
#### (食 品)

食品卸における売上額D.I.は、前期に比べ41.6ポイント低下し▲75.0、収益D.I.も前期比41.7ポイント低下し▲75.0であった。

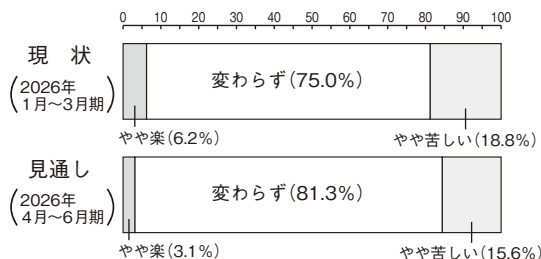
来期についてのD.I.は、売上額、収益ともに今期比25.0ポイント上昇の▲50.0を予想している。

経営上の問題点については、「売上・受注の停滞・減少」「原(材)料の入手難」がいずれも25.0%で最上位であった。

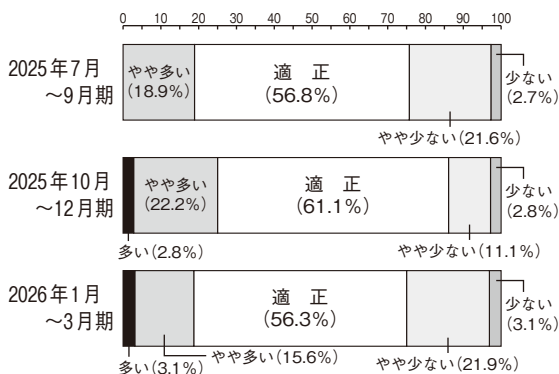
#### 〔売上額、収益の動き(対前年同期比)〕



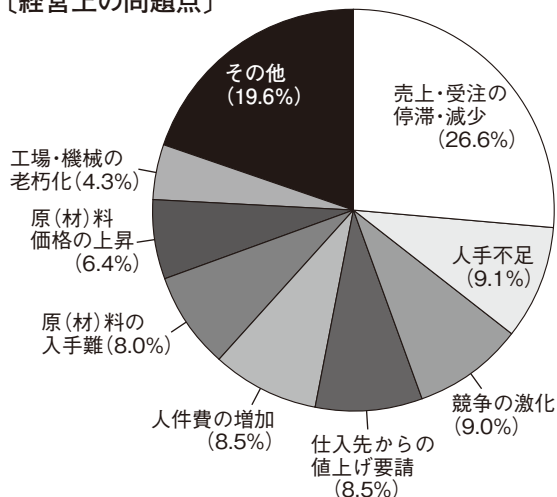
#### 〔資金繰りの現状と見通し〕





#### 〔手持ち在庫の動き〕



#### 〔経営上の問題点〕



## 4. 設備関係業

現 状	見 通 し
	

### ◇概 況

設備関係業全般における今期の前年同期(1年前)と比較した増減率の平均は、売上額▲0.7%、売上数量0.2%、収益▲1.2%となった。前期比では、売上額で4.2ポイント、売上数量で2.2ポイント、収益では3.1ポイントといずれも増加となった。

設備関係業については、前年同期比で売上額、売上数量、収益のすべてで増加した業種は無く、対前期比では建設、その他設備が売上額、売上数量、収益のすべてで増加した。

来期は、売上額で0.8%、売上数量で0.5%、収益で1.2%と、いずれも今期比増加を予想している。

今期の売上額D.I.は、前期に比べ7.1ポイント低下し▲10.1、収益D.I.も7.0ポイント低下し▲10.1と前期での予想を下回り、いずれも5期連続のマイナスとなった。

来期についてのD.I.は、売上額、収益ともに3.4ポイント上昇の▲6.7を予想している。

経営上の問題点については、「売上・受注の停滞・減少」が18.7%で最上位となり、次いで「人手不足」が18.1%であった。

### (建 設)

建設業における売上額D.I.は、前期と同水準の▲6.4、収益D.I.は前期に比べ0.1ポイント上昇し▲6.3となり、いずれも4期連続のマイナスとなった。

来期についてのD.I.は、売上額で今期比6.1ポイント低下の▲12.5、収益では今期比12.5ポイント低下の▲18.8を予想している。

経営上の問題点については、「人手不足」が19.4% (前期比▲8.2%)と前期に続き最上位となり、次いで「原(材)料価格の上昇」が12.9% (前期比▲2.0%)であった。また、「仕入れ先からの値上げ要請」「人件費の増加」が前期に比べ大きく増加している。

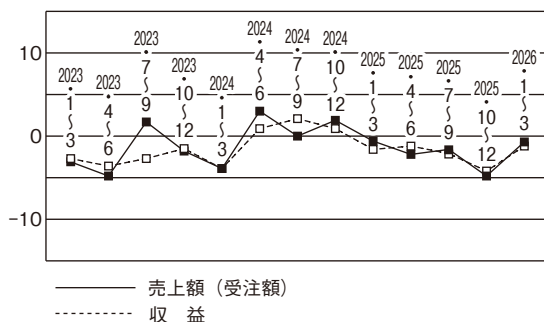
### (木 材)

木材業における売上額D.I.は、前期に比べ60.0ポイント低下し▲100.0、収益D.I.も前期に比べ60.0ポイント低下し▲100.0となり、いずれも3期連続のマイナスとなった。

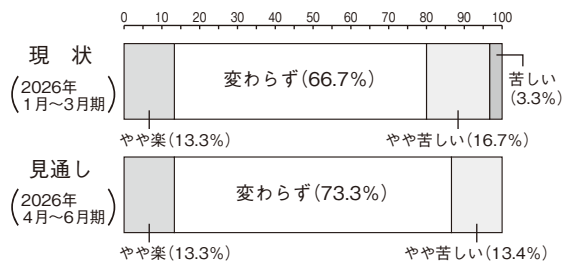
来期についてのD.I.は、売上額、収益ともに80.0ポイント上昇の▲20.0を予想している。

経営上の問題点については、「売上・受注の停滞・減少」が55.6%で最上位、次いで「販売価格の伸び悩み」が18.5%であった。

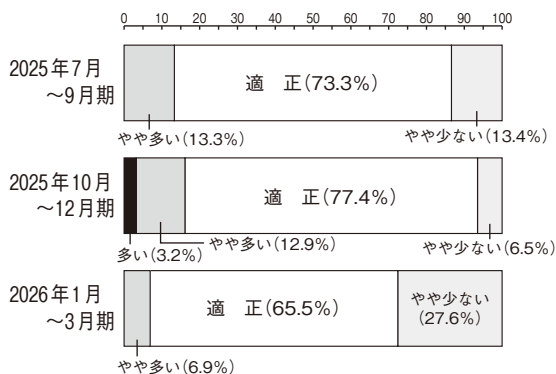
### 〔売上額、収益の動き(対前年同期比)〕



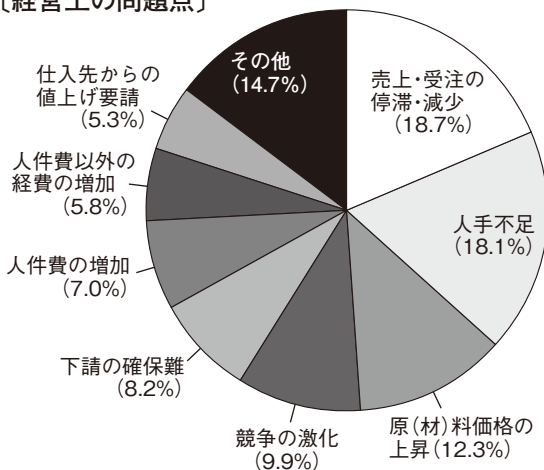
### 〔資金繰りの現状と見通し〕



### 〔手持ち在庫の動き〕



### 〔経営上の問題点〕



[参考]

高岡市、富山市、射水市、砺波市に於ける新設住宅着工戸数

期間	高岡市		富山市		射水市		砺波市	
	総戸数	内、木造	総戸数	内、木造	総戸数	内、木造	総戸数	内、木造
2024年12月 ～ 2025年2月	83	79	626	369	121	120	72	55
2025年3月～5月	166	164	691	562	154	133	73	65
2025年6月～8月	146	129	540	479	106	96	47	46
2025年9月～11月	192	179	557	479	93	83	58	29
2025年12月 ～ 2026年2月	139	114	424	321	79	79	33	24

(富山県庁ホームページより引用)

高岡市に於ける利用関係別新設住宅着工戸数(2025年12月～2026年2月)

( )内は前年同期比

	持家	貸家	給与住宅	分譲住宅	計
一戸建	62 (+ 1)	0 (▲ 1)	0 (± 0)	14 (▲ 2)	76 (▲ 2)
長屋	0 (± 0)	43 (+38)	0 (± 0)	0 (± 0)	43 (+38)
共同住宅	0 (± 0)	20 (+20)	0 (± 0)	0 (± 0)	20 (+20)
計	62 (+ 1)	63 (+57)	0 (± 0)	14 (▲ 2)	139 (▲56)

(富山県庁ホームページより引用)

## 5. 不動産業

現 状	見 通 し

### ◇概況

不動産業における今期の前年同期(1年前)と比較した増減率の平均は、売上額▲6.9%、売上数量▲6.3%といずれも2期連続のマイナスとなり、収益では8期(2年)ぶりのマイナスとなる▲6.3%となった。

来期は、売上額で13.1ポイント増加の6.3%、売上数量も12.5ポイント増加の6.3%、収益は11.9ポイント増加の5.6%を予想している。

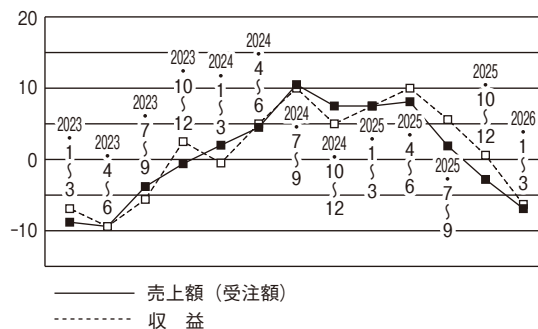
今期の売上額D.I.は、前期に比べ27.7ポイント低下し▲50.0となり、収益D.I.も前期比16.6ポイント低下の▲50.0であった。

来期についてのD.I.は、売上額で今期比75.0ポイント上昇の25.0、収益は今期比62.5ポイント上昇の12.5を予想している。

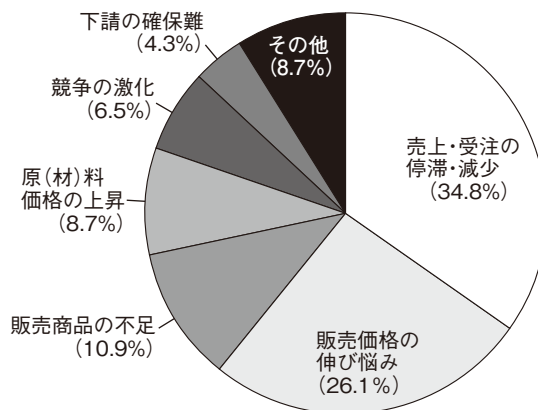
在庫水準については、適正、少ないが37.5%、やや多いが25.0%との回答であった。

経営上の問題点については、前期2位であった「売上・受注の停滞・減少」が34.8%(前期比+14.0%)で最上位となり、次いで前期3位であった「販売価格の伸び悩み」が26.1%(前期比+13.5%)であった。

### [売上額、収益の動き(対前年同期比)]



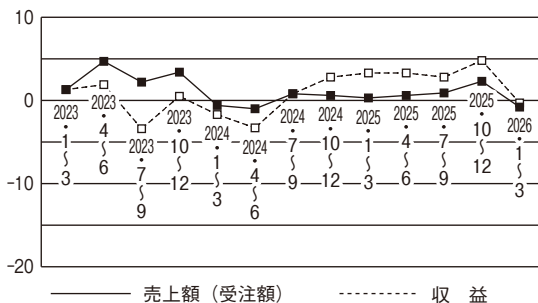
### [経営上の問題点]



## 6. 小売業

現 状	見 通 し

〔売上額、収益の動き〕  
〔対前年同期比〕



### ◇概 況

小売業における今期の前年同期(1年前)と比較した増減率の平均は、売上額で▲0.8%、売上数量▲2.6%、収益は▲0.3%となった。前期比では、売上額で3.1ポイント、売上数量で2.3ポイント、収益で5.1ポイントといずれも減少となった。

来期については、売上額で1.3ポイント増加の0.5%、売上数量で1.3ポイント増加の▲1.3%、収益では1.1ポイント増加の0.8%を予想している。

今期の売上額D.I.は、前期比21.3ポイント低下の▲26.3、収益D.I.では前期比41.3ポイント低下の▲26.3となり、いずれも前期での予想を下回った。

来期についてのD.I.は、売上額で今期比21.1ポイント上昇の▲5.2、収益でも今期比21.0ポイント上昇の▲5.3を予想している。

在庫水準は、適正が42.1%、やや多いが31.6%、やや少ないが21.0%、多いが5.3%であった。

経営上の問題点としては、「売上・受注の停滞・減少」が19.6%で最上位となり、次いで「原(材)料価格の上昇」が13.4%であった。

### 〔自動車〕

県内の2026年1～3月(3カ月)の新車登録台数は、1～2月は伸び悩んだものの3月に大幅に増加し、前期(10～12月)比で107.5%と2期ぶりの増加となったが、前年同期間の実績比では96.6%と回復には至っていない。

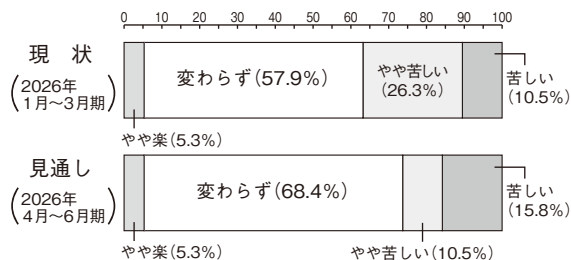
そのうち、普通・小型乗用車についても、3月の大幅増により前期実績を上回ったが(前期比108.8%)、一部メーカーの納車遅れや新型車の投入が少なかったこともあり、前年同期間の実績比では93.1%と大きく下回った。

### 〔軽四自動車〕

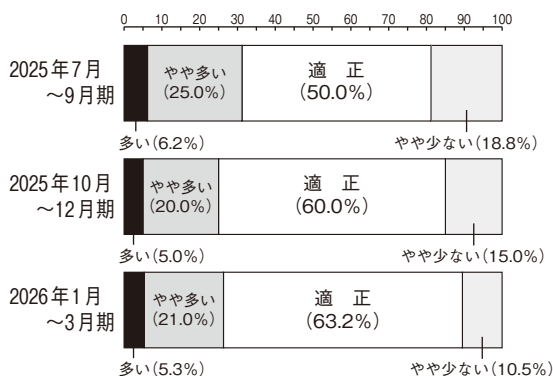
県内の2026年1～3月(3カ月)の軽四自動車の新車登録台数については、物価高や中東情勢の影響による燃料高への懸念等による軽自動車への需要の高まりにより、前期実績を大きく上回り(前期比117.5%)、前年同期間での実績比でも100.2%と3期ぶりに上回った。

中古車(乗用)については、前期比では98.1%と落込んだが、前年同期間の実績比では108.4%と4期連続で上回った。

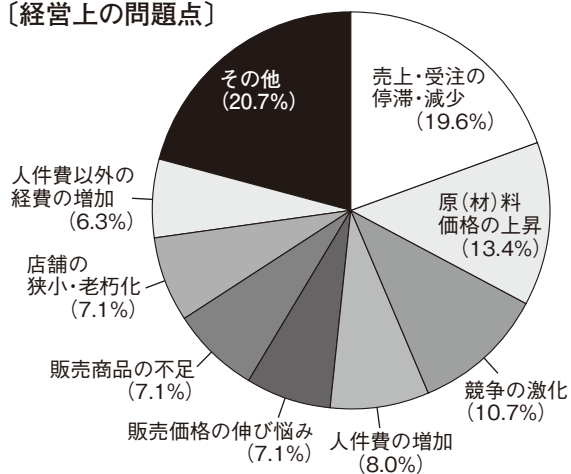
### 〔資金繰りの現状と見通し〕



### 〔手持ち在庫の動き〕



### 〔経営上の問題点〕



### 〔参 考〕

#### 〔自動車：新車登録台数〕

期間	項目	普通乗用	小型乗用
2025年	4月～6月	3,276	1,952
	7月～9月	3,483	2,049
	10月～12月	3,281	2,095
2026年	1月～3月	3,643	2,205

(富山県自動車販売店協会 調べ)

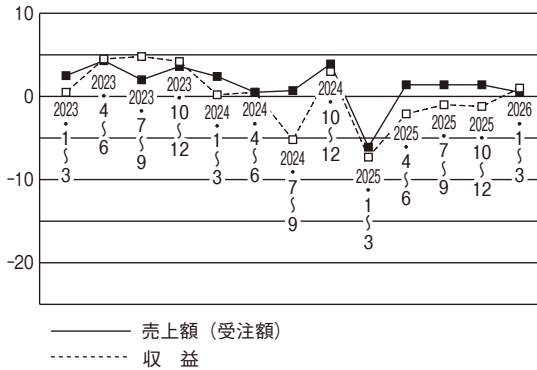
#### 〔軽四自動車：新規検査状況〕

期間	項目	新 車	中 古 車
2025年	4月～6月	3,473	1,855
	7月～9月	3,850	1,555
	10月～12月	3,350	1,451
2026年	1月～3月	3,937	1,424

(富山県軽自動車検査協会 調べ)

## 7. サービス業

〔売上額、収益の動き〕  
(対前年同期比)



### ◇概況

サービス業における今期の前年同期(1年前)と比較した増減率の平均は、売上額0.5%、売上数量▲0.2%、収益1.0%となり、売上で4期連続のプラス、収益では前期での予想通り5期ぶりのプラスとなった。

来期については、売上額で1.9%、売上数量1.4%、収益2.1%を予想している。

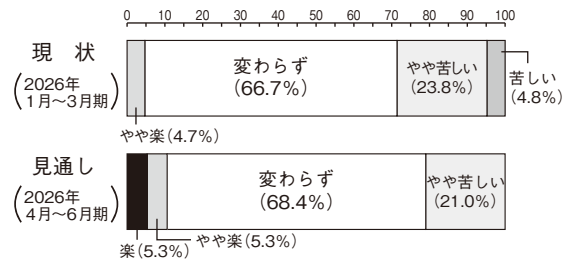
今期の売上額D.I.は、前期より66.6ポイントと大幅に低下し▲14.3、収益D.I.も55.4ポイント低下し▲23.8となり、いずれもほぼ前期での予想を上回る低下となった。

しかし、来期の売上額D.I.は、今期より35.3ポイント上昇の21.0、収益D.I.も34.4ポイント上昇の10.6を予想している。

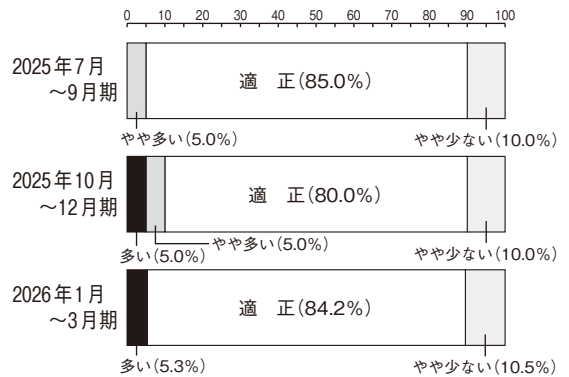
経営上の問題点としては、前期2位であった「原(材)料価格の上昇」が21.7%(前期比+4.3%)で最上位となり、次いで前期最上位の「人手不足」が20.8%であった。

現 状	見 通 し

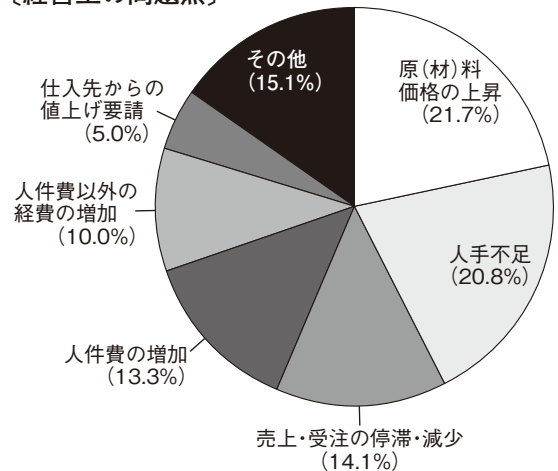
### 〔資金繰りの現状と見通し〕



### 〔手持ち在庫の動き〕



### 〔経営上の問題点〕



### 〔参 考〕

#### 〔高速自動車道利用状況〕

(単位：千台)

IC名	年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
高岡北(能越)	2025年	408	343	462	440	442	416	460	490	460	413	466	446
	2026年	369	386	456									
小矢部東(能越)	2025年	175	149	206	202	223	194	211	239	199	210	215	194
	2026年	160	163	209									
小杉(北陸)	2025年	256	228	305	303	323	294	321	334	303	327	312	296
	2026年	236	245										

各インター通過(乗降)台数の合計

能越道(高岡北IC～高岡IC間)：国土交通省富山河川国道事務所調べ

能越道(小矢部東)：能越自動車管理事務所調べ

北陸道(小杉)：中日本高速道路(株)金沢支社調べ

## 8. 設備投資動向

### 設備投資の概要

今期において1,000万円以上の設備投資を実施したと回答した企業は13社となり、前回調査時より1社減少した。内訳では、生産等機械設備に関わるものが6社、社屋、工場、店舗等の新・増設や改修・保守等が4社、トラック等車両の購入が3社であった。

今後3ヶ月の間に1,000万円以上の設備投資を予定している企業は17社で、前回調査時において実施予定と回答した企業数から2社減少した。

### 今後の設備投資の目的

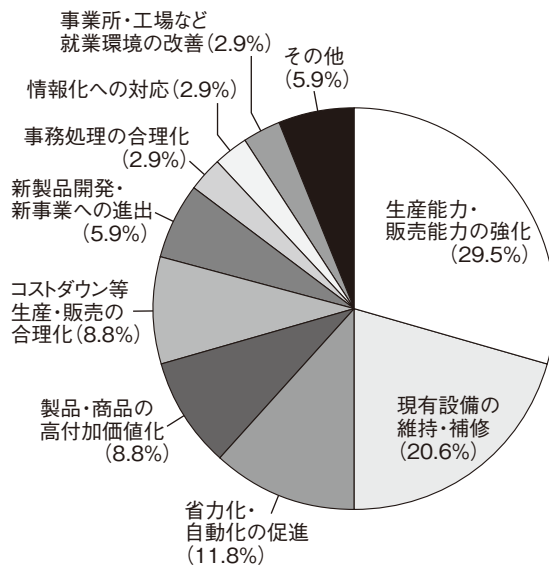
今後、設備投資を予定している企業の目的は

- ① 生産能力・販売能力の強化…………… (29.5%)
- ② 現有設備の維持・補修…………… (20.6%)
- ③ 省力化・自動化の促進…………… (11.8%)
- ④ 製品・商品の高付加価値化…………… ( 8.8%)
- ④ コストダウン等生産・販売の合理化… ( 8.8%)
- ⑤ 新製品開発・新事業への進出…………… ( 5.9%)
- ⑥ 事務処理の合理化…………… ( 2.9%)
- ⑥ 情報化への対応…………… ( 2.9%)
- ⑥ 事業所・工場など就業環境の改善…… ( 2.9%)
- ⑦ その他…………… ( 5.9%)

今回の調査では、『生産能力・販売能力の強化』が前回より7.5ポイント低下したものの最上位となり、前回3位の『現有設備の維持・改修』が前回より9.2ポイント上昇し2位となった。

また、前回回答の無かった『製品・商品の高付加価値化』や『コストダウン等生産・販売の合理化』が前回より回答率が上昇した。

### 〔今後の設備投資の目的〕



### 設備投資の判断基準

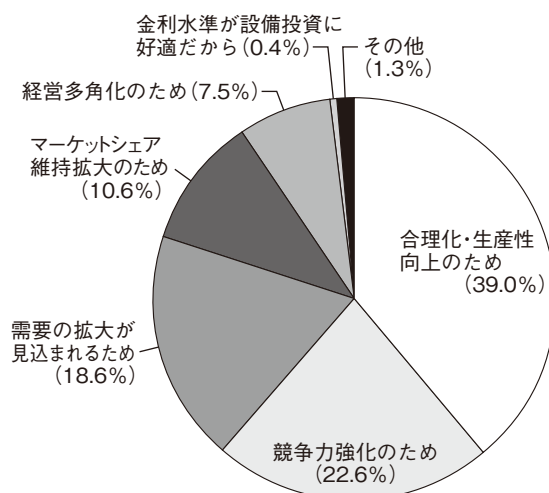
今後の設備投資に当たっての判断基準について

- ① 合理化・生産性向上のため…………… (39.0%)
- ② 競争力強化のため…………… (22.6%)
- ③ 需要の拡大が見込まれるため…………… (18.6%)
- ④ マーケットシェア維持拡大のため…… (10.6%)
- ⑤ 経営多角化のため…………… ( 7.5%)
- ⑥ 金利水準が設備投資に好適だから…… ( 0.4%)
- ⑦ その他…………… ( 1.3%)

今回もトップ項目であった『合理化・生産性向上のため』については、前回と同様、小売業を除くすべての業種で判断基準のトップ項目となった。

2位の『競争力強化のため』については、小売業でトップとなったほか、卸売業で前回より回答率が上昇した。

### 〔設備投資の判断基準〕





# 紙の手形・小切手 利用廃止へ



**2027年3月末までに  
紙の手形・小切手の交換が廃止されます。**

政府方針<sup>(※)</sup>をもとに、産業界・金融界が連携して手形・小切手の利用廃止に向けた取組みを行っています。今すぐ、でんさい等の電子記録債権やインターネットバンキングによる振込等への切替えをご検討ください。

(※) [約束手形・小切手の利用廃止に向けたフォローアップを行う] (「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画 2023改訂版(内閣官房)」より)



〒933-8611 高岡市守山町68番地

TEL 0766-23-1222(代表)

<https://www.shinkin.co.jp/takaoka/>

